



市民フロンティア

「自立と共生」を理念とした地域社会をめざし、自ら活動する人々を応援します



2022 年 2 月 25 日発行 通巻 92 号

あすパークマルシェ

(2021 年 9 月 28 日開催)



「ありがとう♪」のシャワーをニューノーマルに

理事長 中村順子

予測の域を超えたコロナパンデミックに右往左往しながらの 2 年余ですが、いかがお過ごしでしょうか。生活圏域における食・介護・教育等の助け合いがますます欠かせないことを実感しますが、果たしてその助け合いがニューノーマルとして定着しているのでしょうか。1 年前、本誌で「他者の痛みを寄り添い課題解決に向け丁寧に実行することを、組織にも私人にも共通するニューノーマルにしたい」と記したのですが、新しい価値観を社会様式に取り込むのはそう簡単ではありません。つながりより分断を象徴する目を覆うような事件が、日々新聞紙上に載り心痛めます。

そこで皆様に提案です。魔法の言葉「ありがとう♪」を言ったり、言われたりする場面を日常生活にもっと多く取り入れてみませんか。レジ係の方に、エレベーターで先に降りるときに、校門番の先生に、道路警備の方に、デイスービスの運転手さんに、会社周辺を掃除している社員さんに、登下校する子ども達に、お散歩中の老人に・・・まちの中で働き活動する知らない人に勇気を出して言ってみませんか。そして、言われるような実践もいかがでしょうか。

神戸市内の小学校区にはおよそ 1 万人が暮らしています。そのうちの 3% 約 300 人がこのようなニューノーマルを率先すれば、まちは明るく心地よい快適空間となることでしょう。誰から言われた訳でもなく評価されなくても、一人ひとりの温かい声掛けが、三密禁止で離れた人と人の距離をカバーする、最もエコで有効なニューノーマルの一つのスタイルだと思うのです。

2021 年度のはじめに CS 神戸が掲げた 3 つの基本方針ですが、具体行動の一つとして、「ありがとう♪」のシャワーを提案し、後押しすることをニューノーマルにしたいと思います。

互いに気遣いあう「ありがとう」は、マスクを外した後には輝く笑顔となって町中にあふれるに違いありません。

【CS神戸2021年度基本方針】

1. 相手の身になって考え抜き実行する強い意志を持つ
2. 関係を結べていない人々と積極的につながりテーマコミュニティを創出する
3. 試みが良い成果に結びつかなくても励まし合う風土を醸成する



【市民活動支援部】

●**ギフト・オン・ハート～カレンダープロジェクト 2022**・・・企業様よりご寄贈いただいたカレンダーを地域活動団体の皆さまにお届けするカレンダープロジェクト。今年は 29 の企業様より 11 の地域活動団体さんへ直接ご寄贈いただきました。好評をいただいていたが、本プロジェクトは今年をもって終了させていただき運びとなりました。これまでのご協力ありがとうございました！（山村）

●**生きがいごととサポートセンター神戸（ワラビー）**・・・今年度は「コミュニティジョブ支援事業」として、就業相談や起業相談に加え、①多様で柔軟な働き方の提案 ②団体同士をマッチングすることでの運営支援、を主軸として様々な事業を実施しました。①は従来から取り組んでいるグループワークの推進と、副業に関する啓発セミナー、企業の協力を得て、地域活動を体験していただく実証実験も行いました。②に関しては、支援してほしい団体がプレゼンをし、お手伝いできそうな団体や個人などとマッチングしていくといった事業を行いました。久しぶりのリアル開催でしたが、実際に場所を借りて活動をしたり、協働事業につながり・・・と活動者が出会うことでの相乗効果を改めて感じることができました。（人羅）



修了生との記念写真

●**地域貢献ゼミナール**・・・今回初めて兵庫区文化センターで連続講座（全 6 回）として開催しました。元気なシニア層が各分野の地域活動について学び、講座終了時にはゆるやかな地域活動団体が立ち上がることを目指しています。市内各区・明石市・西宮市と広範囲から、50 代～70 代男女の参加があり、講座終了後、地域の魅力・課題発信や

地域団体の PR 動画を撮影する「コミュニティシネマ」、夕方～夜に開催する「地域の居場所」の 2 グループが立ち上がりました。（伊藤）

【地域活動事業部】

●**JR 住吉駅前駐輪場**・・・感染防止対策をして営業を継続し、緊急事態宣言やまん延防止特別措置の合間をぬって地域連携活動を続けています。駅前見守り拠点として認知症見守り・子ども見守りのため、兵庫県認知症対策室班長を招聘してスタッフ研修を実施し、その紹介で認知症高齢者見守り・SOS ネットワークに認知症サポーター店舗として登録しました。昨年順延になった駅前クリーンキャンペーンを 12 月に規模を縮小して 20 店舗 36 名で開催しました。また、新たに始まるキャッシュレスシステムの準備は遅れながらも進めています。（柳井）

●**生きがい活動ステーション**・・・コロナ禍が続く中、つながりづくりを止めない新たな企画として、サロンの一部オンライン化、高齢者に自作のお手紙を届ける「お手紙ボランティア」、本にメッセージを書いて交流する「生き活文庫」などが生まれました。これらの取り組みにより新しい利用者層の獲得を実現できました。様々な制限がある状況でも諦めず工夫することで、道が開けることを実感しています。今後はこういった経験を地域活動者とも共有しながら、日々変化する環境を共に進んでいきたいと思ひます。（伊藤）

●**まちづくりスポット神戸**・・・現在の登録会員は 82 団体。コロナ禍の中、大規模なイベントができなくなりましたが、テーマ別の小規模なイベントとして、子育てしゃべり場、子どもフェスティバル、シニアの気晴らし文化祭等を新たに開催して、登録会員のみなさんが活躍して地域との交流ができる場の創出ができました。一方、予約図書受取コーナーは、取り扱い冊数がコロナに関係なく順調な増加をみしました。（新庄）



子どもフェスティバル

●**神戸市コミュニティ相談センター**・・・3 年目のコミセンは新たな連携や情報収集を積極的におこなった結果、旧態依然とした自治会運営を改革した 2 つの自治会に出会うことができました。どのような改革をされたのか事例発表して頂いた講座は定員 2 倍近くの申し込みがあり急遽会場を増やしました。また、入居先のふたば学舎の運営団体である NPO ふたばとも連携し、寄せられた相談に対して NPO ふたばからアドバイザーを派遣する「事務局助っ人制度」をおこなうなど新しい取り組みをしました。（長井）

●**地域共生拠点・あすパーク**・・・主催、協働、後援事業の 3 本柱で挑戦の「場」として取り組んでいます。「こどもリビング」「助け合いプラットフォーム」等の主催事業、「公園でウエルビーイング」等の協働事業に加え、地域食堂や居場所など 16 の後援事業が活発に行われています。開設当初に比べると後援事業が数・割合共に増加して活動団体の自立度が高まっています。今年も新たな課題に挑戦し、この時代の新たなテーマ毎のプラットフォームを構築し更なるチャレンジを継続していきます。（川田）

会費継続をお願いします 市民活動を共に支えてくださる賛助会員（個人・団体）の方々を募集しております。

【会費】	【振込先】※現金での振込みの場合、手数料 110 円をご負担頂きます。ご了承ください。
個人会費：3,000 円／年	名義：特定非営利活動法人コミュニティ・サポートセンター神戸
団体会費：10,000 円／年	郵便振替 00950-2-144205

認定 NPO 法人 コミュニティ・サポートセンター神戸 (CS 神戸)

〒658-0052 神戸市東灘区住吉東町 5-2-2 ビュータワー住吉館 104

TEL：078-841-0310/FAX：078-841-0312/E-MAIL：office@cskobe.com

発行人：中村順子 編集人：長井明子

2022 年 2 月 25 日発行 通巻 92 号

2022 年度も継続頂ける方は、4 月 1 日以降にご入金頂けると幸いです！ぜひよろしくお願ひします！



編集後記 マスク姿が日常になって季節感が薄れましたが、梅がほころびメジロがせわしく飛び交う姿を見かけて春を感じています。（N）

元気シニアの地域デビューで地域も元気に！

～ 70 歳就業法を活用したシニア活躍の取り組み～



70歳就業社会とシニアの新しい働き方フォーラム

昨年 4 月に改正高年齢者雇用安定法（通称「70 歳就業法」）が施行され、70 歳までの就業機会の確保が企業の努力義務となりました。同法で特徴的なのは、事業者が寄付等をする団体が行う社会貢献事業に社員が 70 歳まで従事できる制度を導入することも就業確保の新しい選択肢が「第 5 類型」として入っているということです。

企業がこの制度を取り入れれば①企業は社会貢献事業に協力することで社員のロイヤリティや企業価値を高めることができる。②シニア社員は体調に合わせた働き方をしながら新しい人間関係や価値観を築くことができる。③NPO は企業での経験を持つ新しい人材を受け入れることで活動の活性化と充実を図れる。など、多方面に様々なメリットが考えられます。

【企業】



- ★社員のロイヤリティUp！
- ★企業価値のUp！

【シニア社員】



- ★体調にあわせた働き方
- ★新しい人間関係・価値観

【NPO・地域ボランティア】



- ★豊かな企業経験がある人材
- ★活動の活性・充実

本事業では、この制度の周知を図るため、神戸大学大学院法学研究科の大内伸哉教授を招き、昨年 2 月に主に企業を対象にした「70 歳就業社会とシニアの新しい働き方」フォーラム、10 月 21 日には NPO をはじめとした地域団体を対象として「70 歳就業法で NPO にチャンスあり！」と題してセミナーを開催しました。

このフォーラムとセミナーで実施したアンケートでは、NPO 等の地域団体が第 5 類型について大きな関心を示しているのに対し、多くの企業は「関心はあるが導入するかどうかはわからない」と答えています。現状は多くの企業が手探りの状態ですが、制度導入の好事例を積み重ねて、より多くの企業を巻き込んでいこうと思っています。

さらに本事業では最初の事例を作るべく、関心のある企業と個別に勉強会を重ね、シニア社員の受け皿となる地域貢献事業や社内の制度作りへ向けてより具体的な提案を行っています。しかし、地域貢献活動については具体的なイメージがない企業も多いため、まずは退職に向けての社内研修での提案、インターンシップの受入などから企業への働きかけを進めていく予定です。

3 月 4 日には、「企業が挑戦する 70 歳就業時代の新しい働き方」セミナーを企業向けに開催し、これまで行った導入に向けた企業との取り組みの事例なども紹介します。（守永）



大内伸哉教授



70歳就業社会とシニアの新しい働き方グループワークの様子



70歳就業法でNPOにチャンスあり！

安心して暮らせる地域を目指すプラットフォームづくり

～ 「食べる健康プラットフォーム」と「助け合いプラットフォーム」～

あすパークを拠点として、安心して暮らせる地域を目指す 2 つのプラットフォームづくりをスタートしています。ひとつは、シニアショートワーク事業から生まれた「食べる健康プラットフォーム」（むすびえ・こども食堂基金）の具体的な活動を展開しています。もうひとつは一人暮らしの高齢者のお困り事（制度外の生活支援）を周辺の地域住民で構成するグループが担う「助け合いプラットフォーム」（ニッセイ財団・高齢社会助成）です。どちらも CS 神戸ならではの地域性とこれまでのノウハウを活かして取り組んでいます。

食べる健康プラットフォームの拡大！（全国こども食堂支援センター・むすびえ助成）

シニアショートワーク事業における仕事の創り出しの取り組みとして、昨年 2 月より食べる健康プラットフォーム事業の具体的な活動がスタートしました。企業のフードロス対応策においてこども食堂で活用頂く食材を、地域のシニアが中心となって自転車配送チーム「つながる便」が届ける事業です。昨年 8 月からは全国こども食堂支援センター・むすびえの助成により、東部（灘区・東灘区）の拡充と西部（垂水区・西区）の活動も新たにスタートしております。また地域の食育のためのセミナー開催、ニュースレターの発行も同時に進めました。



食べる健康セミナーで防災「バッククッキング」



UNITYでのフードパントリー

加えて、昨年 11 月から学園都市にある大学共同利用施設「UNITY」にて、コロナ禍での食支援が必要な地域の大学生へのフードパントリーを毎月開催しています。また、今年 1 月から全 5 回で「地域・こども食堂運営者養成講座」を開催し、新たな地域・こども食堂の立ち上げに向けた人材養成も行っています。今後とも食を通じて、地域の様々な方の繋がりと広がりを目指していきます。（中本・守永）

助け合いプラットフォームの確立へ！（ニッセイ財団・高齢社会助成）

この事業では、高齢で一人暮らしになってもいつまでも安心して暮らし続けられる地域を目指し、介護保険の制度内・制度外の連携によるプラットフォームの確立を目指します。

CS 神戸が担うことは、制度外となる日常生活の困り事に取り組む地域活動グループを立ち上げ、自立して活動していただくまで伴走支援をすることに加えて、地域にある制度内の事業者と連携をすることです。

近い将来目指す姿は、地域に暮らす誰もが、日常生活の困り事があっても助けを求める先が多くあり、何歳になっても皆が安心して暮らせる地域になることです。

お一人暮らしの高齢者の方のお困り事を把握するため、現在東灘区内の全ての地域包括支援センター（あんしんすこやかセンター）にヒアリングのご協力をいただいています。地域ニーズをしっかりと把握し、それに応えてくださる地域活動グループの誕生が待ち遠しいです。（山村）



制度内 V 制度外 V